

## 4 - 6 伊豆半島東部地域における全磁力観測(1987年4月~1988年3月)

Geomagnetic Total Intensity Observations in the Eastern Part of Izu Peninsula  
(April, 1987 -March, 1988)

東京大学 地震研究所  
地震予知移動観測室地磁気移動班  
Geomagnetic Mobile Survey

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

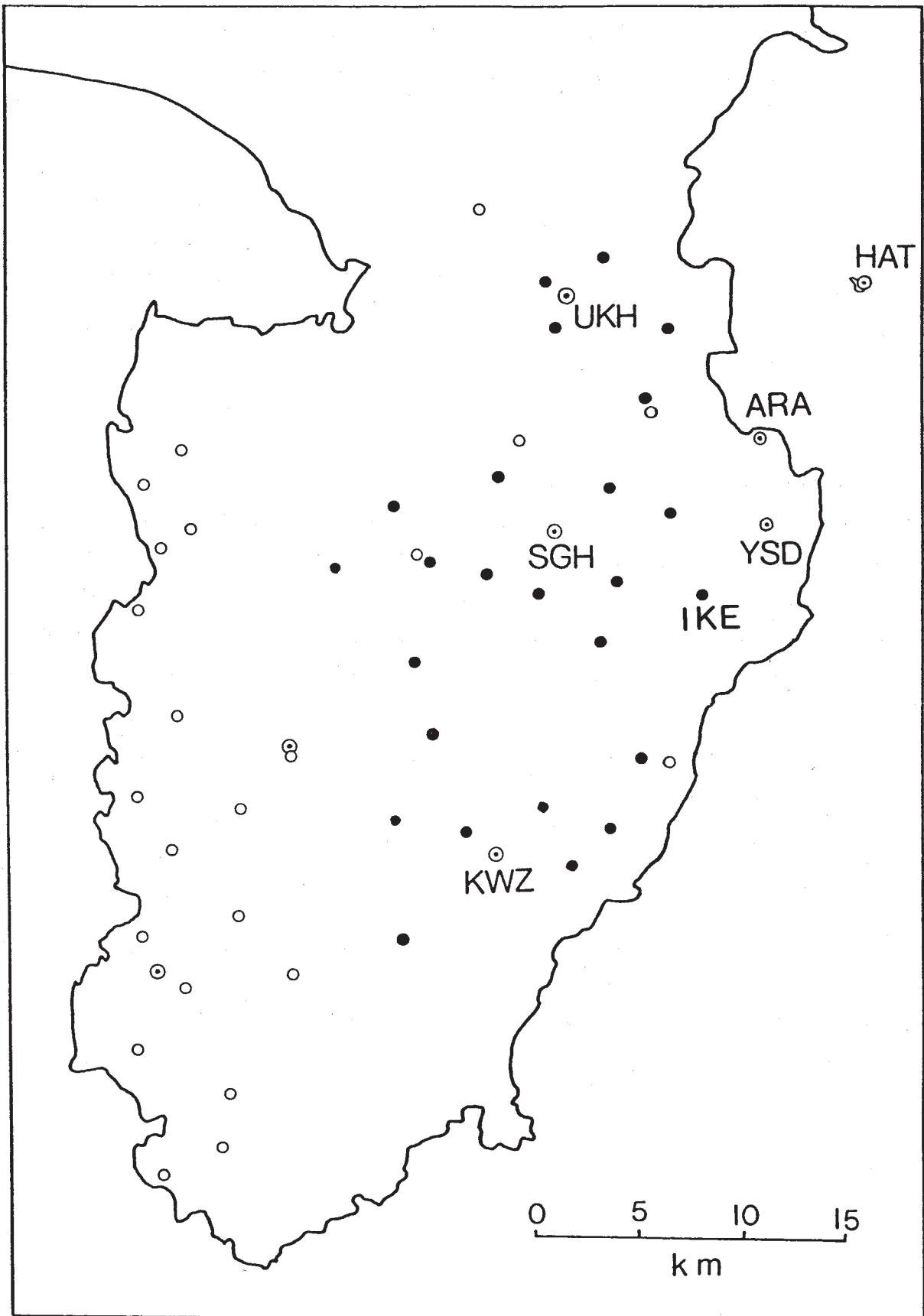
前報<sup>1)</sup>に続いて、標記の期間における全磁力観測結果を報告する。第1図に伊豆半島東部の、連続観測点の分布を示す。1987年4月から伊東市池(IKE)において、連続観測を開始した。ここは大室山の南西麓で、1984年頃から2年間の間に、約10 nTの全磁力減少が検出された測量点である。

第2図に中伊豆町菅引(SGH)を基準として、夜間全磁力単純差の日平均値をプロットしたものを示す。1987年7月から10月頃にかけて、IKEでは約3 nTの全磁力増加が起り、その後元にもどるような変化をしている。ただしIKEのプロトン磁力計は、局所的な磁気異常域に置かれている。この変化が地殻活動を反映したものであるかどうかは、なお検討を要する。1988年3月頃、HAT, ARA, YSDおよびIKEに見られる急減少は、潮流の作るダイナモ磁場を夜間だけサンプリングすることで生じた、見掛けの変化(エイリアシング現象)である。<sup>2)</sup>

第2図下段に、房総半島の勝浦(KTU)の全磁力変化も示した。1987年12月17日千葉県東方沖地震の前後では、特に顕著な変化は見られない。この地震はキュリー点深度よりかなり深い所に発生したため、地磁気には変化が現れなかった、と考えられる。

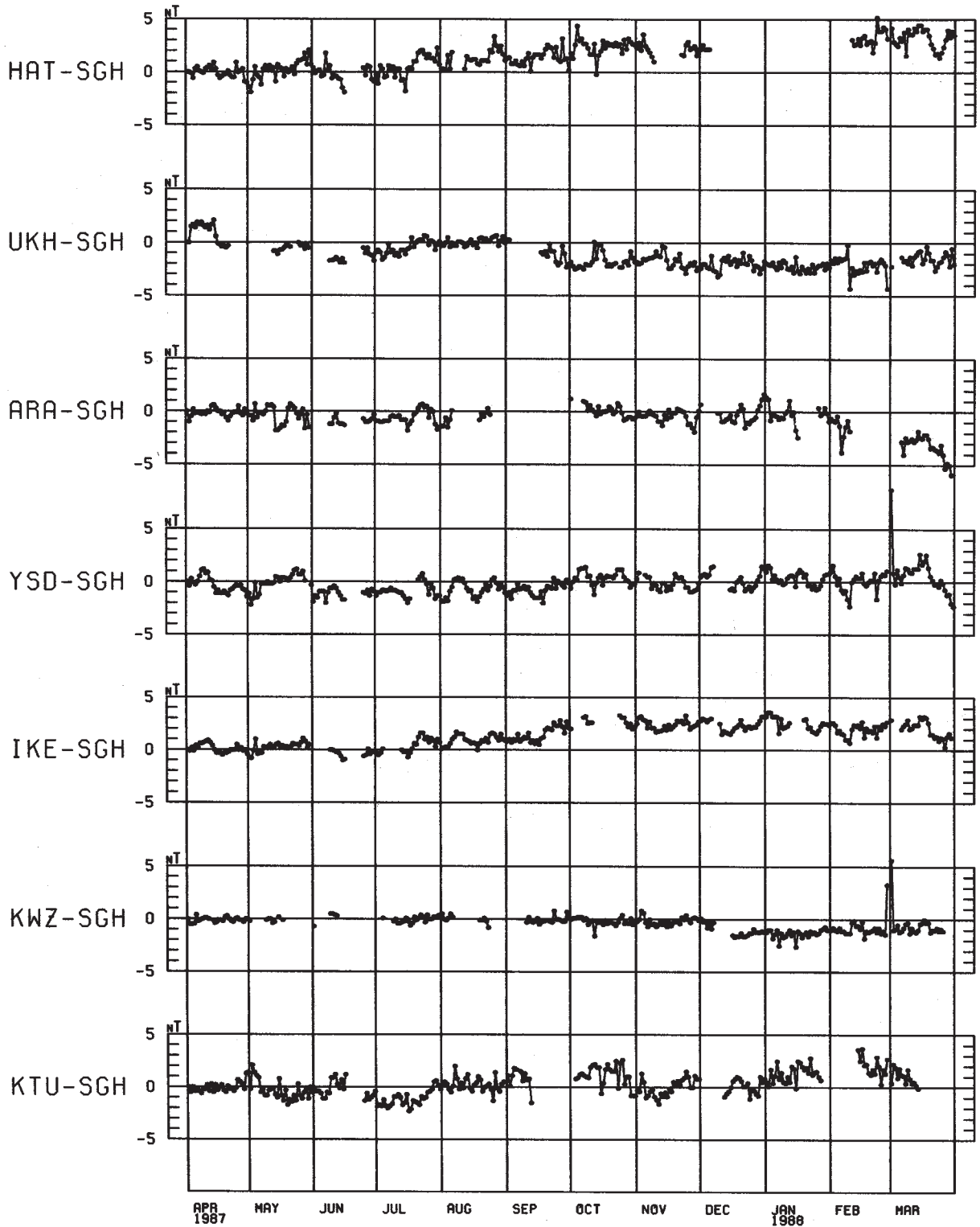
### 参 考 文 献

- 1) 地磁気移動班：伊豆半島東部地域における全磁力観測(1985年11月~1987年4月)，連絡会報，**38**(1987)，316 - 322.
- 2) 笹井，石川：伊豆半島東部地域の異常地殻活動に伴う全磁力変化(第五報) - 1982 - 1984年川奈崎沖群発地震と地殻隆起 - ，震研彙報，**60**(1985)，147 - 177.



第1図 伊豆半島東部地域における全磁力連続観測点分布

Fig. 1 Location of continuously recording proton precession magnetometers in the eastern part of Izu Peninsula. IKE was newly established in April 1987.



第2図 初島 (HAT), 浮橋 (UKH), 新井 (ARA), 吉田 (YSD), 池 (IKE), 河津 (KWZ) における, 菅引 (SGH) を基準とした全磁力変化。夜間単純差の5日平均。

Fig. 2 Changes in the total force intensity at eastern Izu stations, HAT, UKH, ARA, YSD, IKE and KWZ relative to SGH. Five-day mean of simple differences of nighttime values are plotted. At the bottom is shown the change at KTU (Katsu-ura) in Boso Peninsula. No coseismic change was observed at the time of the East-Off Chiba Prefecture earthquake on Dec. 17, 1987.